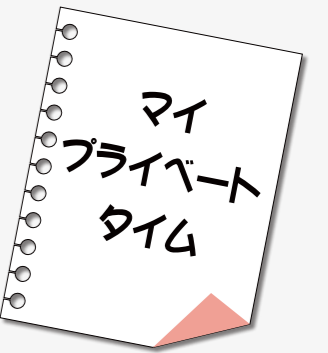


一日一生

やまとこおりやま 大和郡山市長(奈良県) 上田 清
Kiyoshi Ueda



一日一生

28年前の夏、北アルプスの常念岳に登っていた私は、生涯忘れることのできない出来事に遭遇しました。頂上近くに達した時、確かに小雨がばらつき、遠くで雷鳴が響いてはいましたが、あろうことか、その雷が私の頭を直撃し、顔、胸から右足に至る大火傷を負ったのです。よくぞ助かったと今も言われるのですが、入退院を繰り返す中で、大自然の威力と恐さをあらためて知るとともに、生きていくことの有り難さを感じてきました。そのころ、教えていただいた言葉が「一日一生」。肝に銘じています。しかしながら、今年の3月、自然は想像をはるかに超える鋭い牙を東日本に向けて剥きだしにしました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地に対し、息の長い応援



市民マラソンに参加する筆者

を重ねていきたいと考えています。

今回の震災では、各地で、津波の記憶や教訓を残した石碑や語り伝えが話題になりました。私たちの先人は何度も何度も自然の脅威にさらされながら、それを乗り越え、命を受け継いでくれたのです。そこに生まれたのが、さまざまな体験を「語り継ぐ」という知恵でした。

大和郡山市は、わが国で最初に生まれた物語『古事記』を、それこそ抜群の記憶力で語り伝えた稗田阿礼ひえだのあれの出身地とされ、平成24年が物語の完成1300年を迎えることから、阿礼に因み「語り部の里」として、語り継ぐことの意味をともに探り、発信したいと考えているところです。

先日、古文書クラブで学んでいる方が、ある神社の宮座に伝わる文書を冊子にまとめ、お持ちいただいたのですが、江戸時代、地震に関する記載があちこちであり、驚きました。地域の伝承や語り継ぎに、私たちはもっと学ばなければならぬのかも知れません。

動く楽しみ

私の一日はラジオ体操で始まります。もう10年近くになるでしょうか。夏休みのラジオ体操に参加していた仲間から、夏以外にも集まりたいねという声があがり、翌年の春から本格的にスタートしたのです。

にんまりとしながら、これぞ動く楽しみだと勝手に思っています。

参加する楽しみ

夏を迎えると、あちこちの地域で夏祭りや盆踊りが行われます。今年も、犠牲者の鎮魂と被災地の復旧・復興を願う祈りの場になると思いますが、その盆踊りで炭坑節を歌わせていただくことが、いつの間にか定番となっていました。これも全くの自己流ですが、音頭を取らせていただき、踊りの輪に入る。とにかく参加することの楽しみがそこにはあります。

もともと歌が嫌いではなかったのですが、盆踊りをきっかけに、コーラスグループに参加する機会もできましたが、なかでも、市内にある「知的障害者通所授産施設ひかり園」が、毎年行っている「ひかり園・輝コンサート」では、入所者のみなさんと一緒に、コーラスボランティアという形で、楽しく合唱に参加させていただいています。

歌や音楽は、すべてのものを越え、人の心をつなぐ大きな力を持っています。その場に私自身が参加することが、地域の元気につながればとも思っています。最後に、本市では、今年で17回目を迎える「全国金魚すくい選手権大会」が年々盛況で、8月の本番には選手・観客を含



蕎麦打ちの技を披露

への挑戦ということになるでしょうか。長く登山をしていた関係で、料理や洗濯など、身の回りのことはおおよそこなせるつもりですが、数年前から見よう見まねで始めたのが蕎麦打ち。それなりに自信もついて、指南役におさまることも時々ありますが、蕎麦を食べるのが目的というより、いわば童心に戻って賑やかに過ごすことに楽しみを見いだしているような気がします。こね鉢など、蕎麦打ちの道具集めも新たな楽しみです。そのほか、少し時間ができた時など、思わず熱中できるのが日曜大工。家の中には修理や修繕の必要な箇所が順番に現れるもので、いろいろと工夫をしながら、労を厭わなければ素人でも解決できるケースが結構あり、結果を見て



スポーツ吹矢に挑戦

当初は、雨が降れば中止となっていました。したが、やがてグラウンドの隣にあるミニ体育館(昭和50年代、地域ごとに整備されました)を使えるようになり、それから、年末年始を除いて毎日、少なくとも50〜60人が集まって、心地よい汗をかいています。

参加すると捺してもらえぬ判子はんこ。子どもたちもそうですが、大人の判子も判子は不思議と嬉しいもの。

今では体操だけではなく、草引きをしたり、フェンス沿いに朝顔を植えたり、大半がいわゆる高齢者ですが、私にとっては貴重な情報源でもあり、何気ない朝の会話がいつも楽しみです。

体を動かすのと同じく、気分転換に役立つのが、いろいろなものづくり

めて1万人を超える方々が全国から参加いただいています。『たかが金魚すくい、されど金魚すくい』で、金魚がつなぐ人の輪、ネットワークの広がりは目をみはるばかり。本市の金魚は被災地でも活躍しています。

予選にあたる地方大会も各地で開催いただいています。地域づくりのひとつとしていかがでしょうか。動物愛護の精神を基本としながらも、スポーツとしての金魚すくいがいかに人の心をつかむか、秘伝を伝えるDVDもありますので、どうぞお声をお掛けください。



ひかり園・輝コンサート(平成23年7月3日 やまと郡山城ホール)